

赤崎小

風車

学校だより

平成29年度 平成29年12月8日発行

第9号 北九州市立赤崎小学校

学力特集号 校長 宮原 謙二

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	・全国平均正答率を下回っていたが、内容の中心を明確にして書く問題は基礎ができていた。 ・俳句の情景をとらえる問題に課題が見られた。
国語B	・全国平均正答率を下回っており、理由を明確にして、自分の考えをまとめる問題の無回答率が高く、苦手意識をもっている児童が多い。
算数A	・全国平均正答率を下回っており、重さや長さの任意単位による測定、面積などの量と測定の正答率が特に低く、苦手意識をもっていることが分かった。 ・算数の計算についての力が不足しており、基礎的な計算力を付ける必要がある。
算数B	・全国平均正答率を下回っている。無回答率も高く、自分の考えを記述することへの苦手意識が高いことが分かった。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・感想文や説明文を書く、自分の考えを説明したり文章に書いたりすることが難しいと感じている児童は、全国に比べて高い。 ・将来の夢をもっている、自分にはよいところがあると答える児童は、全国に比べても高い数値にある。 ・平日に勉強量が1時間未満の児童が4割強、休日に全く勉強しない児童が4割弱、勉強量が1時間未満の児童が全体の4分の3を占めていることが課題である。家庭学習の大切さを伝え、家庭に協力を求めていく必要がある。 ・平日に1時間以上、テレビを見る・ゲームをする携帯電話を操作する・インターネットをする児童の割合が全国平均に比べて高いことが分かった。これらの時間を減らし、家庭学習に時間を充てなければならない。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組**① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)**

- ・「話し合う活動」と「書く活動」を一単位時間に必ず位置付ける。特に「書く活動」の習慣化を目指す。
- ・学力向上のための特設時間(朝自習)「赤崎タイム」を継続して実施する。
- ・過去問題、アシストシート、学力定着サポートシステムの活用を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・「赤崎小家庭学習の手引き」等を用いて、家庭学習の内容や時間等を引き続き家庭に啓発していく。
- ・全国学力・学習状況調査、CRTの課題と取組を保護者へ周知する。(学校だより・ホームページ)
- ・小6スクリーニングによる中学校教師の授業参観を行い、課題解決の方法を共に探る研修会を実施する。